

		歯数				品群では種実 乳 菓子類と特定保健用食品および栄養素調整食品で現在歯少の摂取量が少なく 逆に穀類では多い。いも野菜類では要補綴歯多の摂取量少ない。栄養素はタンパク質 脂質 ミネラルの多く ビタミン類の一部において現在歯少の摂取量少なく 炭水化物では多い。 食物繊維は要補綴歯多の摂取量少ない。	歯科疾患実態調査および国民生活基礎調査とリンケージした国民栄養調査データによる解析 安藤雄一、三浦宏子、若井建志、他 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患 糖尿病等 生活習慣病対策総合研究事業 分担研究報告書 153-164 平成23年度 2011年度	
59	Dorner TE,	虚弱	65歳以上 虚弱	介入	オー スト リア	プロトコール	Nutritional intervention and physical training in malnourished frail community-dwelling elderly persons	10.1186/1471-2458-13-1232.
			を2群	週二回 指導3か 月			carried out by trained lay "buddies": study protocol of a randomized controlled trial.	
				半年後 一年後			Dorner TE, Lackinger C, Haider S1, Luger E, Kapan A, Luger M, Schindler KE. : BMC Public Health. 2013 Dec 27;13:1232. doi: 10.1186/1471-2458-13-1232.	
60		義歯適合	50歳以上 4820人	横断		残存歯18本以上の群に比べ義歯不適群は HEIスコア 野菜摂取量、多様性、ビタミン	Low dietary quality among older adults with self-perceived ill-fitting	

	Sahyoun NR	栄養摂取量	残存 18 本群		アメリカ	ンC、カロチン摂取量が低かったが、義歯適合群は残存歯群に比較し有意差なかった。	dentures. : Sahyoun NR, Krall E. ; J Am Diet Assoc. 2003 Nov;103(11):1494-9.	PMID: 14576715
		栄養指標	義歯適合○群 ×群					
61	Margaret R. Savoca	口腔の健康	635 人	横断		10 歯以下の残存歯を持つ者は HEI-2005 のスコアが低く、11 本以上の歯を持つものと比較して果物、肉と豆、および油とよりのカロリーより固体脂、アルコール、および砂糖からカロリーを摂取する。0-10 歯を持つものの1%未満と11 本以上残存歯者の4%しか HEI-2005 スコアの推奨値を満たしていなかった。10 本以下残存歯者は固形脂肪、アルコール、および砂糖より野菜総量、緑黄色野菜、およびカロリーの推奨量の摂取が少なかった。	Severe Tooth Loss in Older Adults as a Key Indicator of Compromised Diet Quality Margaret R. Savoca, Thomas A. Arcury, Xiaoyan Leng, Haiying Chen, Ronny A. Bell, Andrea M. Anderson, Teresa Kohrman, Rebecca J. Frazier, Gregg H. Gilbert, and Sara A. Quandt , Public Health Nutr. 2010 Apr; 13(4): 466-474.	
		栄養摂取量			アメリカ			PMCID : PMC28478 93
		HEI						
62		機能歯	60 歳以上	横断	アメリカ	義歯なし無歯顎群と無歯顎でFD使用群の食事の質は低く、食事の質を妥協していたり食べるときに義歯をはずしていた。食品多様性も乏しかった。11 以上歯義歯なしの人と、PD 使用のものが同程度の食事の質を持っていた。	Impact of denture usage patterns on dietary quality and food avoidance among older adults. Savoca MR, Arcury TA, Leng X, Chen H, Bell RA, Anderson AM, Kohrman T, Gilbert GH, Quandt SA. ;J Nutr Gerontol Geriatr. 2011;30(1):86-102.	
	Margaret R. Savoca	栄養摂取量	635 人 農村					10.1080/0 1639366.20 11.545043

63		機能歯	60 歳以上	横断		口腔の状態により食物回避がおこる。食品回避は健康的な食生活に貢献する食品を排除し、食品のより多くを避ける人は食の質が悪い怖れがある。	Food Avoidance and Food Modification Practices due to Oral Health Problems Linked to the Dietary Quality of Older Adults Margaret R. Savoca , Thomas A. Arcury, Xiaoyan Leng, Haiying Chen, Ronny A. Bell, Andrea M. Anderson, Teresa Kohrman, Gregg H. Gilbert, Sara A. Quandt, : J Am Geriatr Soc. 2010 Jul; 58(7): 1225-1232.	10.1111/j.1532-5415.2010.02909.x
	Margaret R. Savoca	栄養摂取量	635 人 農村		アメリカ			
64	Quandt SA, ,	口腔乾燥	60 歳以上	横断	アメリカ	口内乾燥は特定の砂糖入り飲料の消費と関連した。深刻な口腔乾燥は、全粒穀物、全果物の低い摂取量と関連し食品の回避に関連した。生のニンジン、リンゴ、ポップコーン、レタス、トウモロコシ、ナッツ、および焼きまたは揚げた肉も回避されていた。	Dry mouth and dietary quality in older adults in north Carolina. Quandt SA, Savoca MR, Leng X, Chen H, Bell RA, Gilbert GH, Anderson AM, Kohrman T, Arcury TA. : J Am Geriatr Soc. 2011 Mar;59(3):439-45.	10.1111/j.1532-5415.2010.03309.x
		食品多様性	622	自己申告 のデータ				
		高齢者						
65	Ervin RB	歯数	60 歳以上	横断		機能歯列（21 本以上）男性はわずかに多くの果物を消費し、無歯男性より高いα-およびβ-カロチン摂取量を持っていました。機能歯列女性は無歯女性より高いビタミンCの摂取量を持っていました。	The effect of functional dentition on Healthy Eating Index scores and nutrient intakes in a nationally representative sample of older adults. : Ervin RB, Dye BA. J Public Health Dent. 2009 Fall;69(4):207-16.	10.1111/j.1532-7325.2009.00124.x
		成分摂取量	2560 人		アメリカ			

66		歯数	252	横断		男性被験者では因果関係なし。0-19 歯の残存歯を持つ女は 20 歯を持つ女性よりも有意に低い FDSK-11 スコアを有しました。さらに、少数の歯はと FDSK-11 スコアがより低い傾向。	Association between dental status and food diversity among older Japanese. : Iwasaki M, Kimura Y, Yoshihara A, Ogawa H, Yamaga T, Takiguchi T, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, Fukutomi E, Chen W, Imai H, Fujisawa M, Okumiya K, Manz MC, Miyazaki H, Matsubayashi K. : Community Dent Health. 2015 Jun;32(2):104-10.	
	Iwasaki M		地域在住高齢者		日本			PMID: 26263604
67		歯数	80 歳	横断		良い歯列を持つグループに比べ複数の栄養素の摂取量が大幅に不適合義歯中間補綴群が悪かった。 野菜、魚、貝類消費は不適合入れ歯や中間補綴部群で摂取少なかった。食事摂取量は、悪いフィッティングを持つもので劣っていた。	Oral health status: relationship to nutrient and food intake among 80-year-old Japanese adults. Iwasaki M, Taylor GW, Manz MC, Yoshihara A, Sato M, Muramatsu K, Watanabe R, Miyazaki H. : Community Dent Oral Epidemiol. 2014 Oct;42(5):441-50.	
	Iwasaki M		353 人	歯の状態 で 4 群	日本			PMID: 25353039
68		咀嚼能率	262 人	横断		25 品目からなる摂取可能食品アンケート法は	Development of New Food Intake Questionnaire Method for Evaluating the Ability of Mastication in Complete Denture Wearers :	
	Hisashi koshino	総義歯	FD 装着者		日本	有効性 再現性が良好である。		10.2186/prp .7.12

							Hisashi Koshino, Toshihiro Hirai, Yoshifumi Toyoshita, Yuichi Yokoyama, Maki Tanaka, Kazuo Iwasaki, Toshio Hosoi : Prosthodontic Research & Practice Vol. 7 (2008) No. 1 P 12-18	
69		SNAQ	長期ケア 247 人	横断		SNAQ と CNAQ は、地域在住の成人、長 期ケアの住民における体重減少および予測 が短時間でできる、簡単な食欲評価ツール です。SNAQ は CNAQ の 4 項目の誘導体 であり臨床的に、より効率的である。	Appetite assessment: simple appetite questionnaire predicts weight loss in community-dwelling adults and nursing home residents. :	
	Wilson MM	CNAQ	地域在住 709 人		アメ リカ		Wilson MM, Thomas DR, Rubenstein LZ, Chibnall JT, Anderson S, Baxi A, Diebold MR, Morley JE. : Am J Clin Nutr. 2005 Nov;82(5):1074-81.	PMID: 16280441
		食欲						
70		栄養プロフ ァイル	1137 人	コフォー ト		多重ロジスティック分析では、歯牙の状態 と、主要栄養素の重要かつ独立した関連を 示しました。また、義歯装着者は、健常 歯列に非常に類似しており、欠損歯列より	Influence of dental status on dietary intake and survival in community- dwelling elderly subjects :	
	Appollo nio I	口腔状態	70－7 5	縦断	イタ リア		Appollonio I , Carabellese C ,	PMID: 9466295

						も実質的に良好な栄養摂取量を持っていました。女性では欠損歯列は、健常歯列よりも高い死亡率と関連していた。高齢女性では、欠損歯の状態と葉酸摂取量の両方が栄養パラメータに基づいて、多変量解析における死亡率の有意かつ独立した予測因子でした。しかし、欠損歯列は、一般的な多変量モデルにおける死亡率の独立した予測因子ではなかった。	Frattola A , Trabucchi M . : Age Ageing. 1997 Nov;26(6):445-56.	
71		虚弱	826 人	縦断		女性の 63.5%が義歯を使用しており、その中の 11.6%が咀嚼嚥下困難者でした。総血漿カロテノイド濃度、25-ヒドロキシビタミン D が咀嚼嚥下困難者では低い。義歯使用者は健康者 58%プレフレイル 66%、フレイル 73%でした。義歯使用者で、咀嚼や嚥下困難を報告した女性は、5 年生存率が低かった。	Denture use, malnutrition, frailty, and mortality among older women living in the community. : Semba RD , Blaum CS , Bartali B , Xue QL , Ricks MO , Guralnik JM , Fried LP . : J Nutr Health Aging. 2006 Mar-Apr;10(2):161-7.	
	Semba RD	ビタミン	70-79		アメリカ			PMID: 16554954
		口腔状態						
72		アルブミン	600 人	縦断		低アルブミン血症を持つ高齢者は 5、10 年後ともに歯の喪失の危険性が高かった。	Serum albumin levels and 10-year tooth loss in a 70-year-old population. : Yoshihara A , Iwasaki M , Ogawa H , Miyazaki H . : J Oral Rehabil. 2013 Sep;40(9):678-85.	
	YOSHIWARA A	歯牙欠損	10 年後 331 人	10 年追跡	日本			10.1111/joor.12083

73		FFQ	75 歳 264 人	縦断		抗酸化物質を多くとることで地域在住高齢 日本人で歯周病を緩和する可能性を示唆	Dietary antioxidants and periodontal disease in community-based older Japanese: a 2-year follow-up study. : Iwasaki M 1 , Moynihan P , Manz MC , Taylor GW , Yoshihara A , Muramatsu K , Watanabe R , Miyazaki H : .Public Health Nutr. 2013 Feb;16(2):330-8.	10.1017/S1 368980012 002637
	Isakaki M			5 年追跡	日本			
74		咬合力	542 人	横断	日本	男性では、最大咬合力測定(MOF)は年齢、 BMI、および認知機能と有意な関連性を有 したが、女性では関連がなかった。咀嚼能 力、現在歯数無歯顎者の割合には、男女と も MOF と有意な関連性を認めた。女性の IL-6 と MOF とに有意な関連性が認められ た。男性では MOF と身体的機能は測定項 目全てに有意な関連性を認めた。同様の傾 向は女性でも認めたが、有意ではなかつ た。MOF 低位グループの男性群は、MOF 高位グループの男性群に比べ歩行速度にお いて低位となるリスクが有意に高かった。 全体としては、身体機能の低い超高齢者の 最大咬合力は小さい可能性が高いことを示 した。女性では、MOF 低位グループは、	超高齢者における最大咬合力と身 体的機能活動との関係 東京在住 の超高齢者への健康調査結果：飯 沼 利光, 新井 康通, 福本 宗子, 高山 美智代, 阿部 由紀子, 朝倉 敬子, 西脇 祐司, 武林 亨, 岩瀬 孝志, 小宮山 一雄, 祇園白 信仁, 広瀬 信義： 未病と抗老化 (1347- 667X)21 巻 Page114-122(2012.06)	201231376 8
	飯沼利 光	身体機能	85 歳以上					

						歩行速度トと有意な関連性を認めた。		
75		介護予防	49 人	縦断		口腔のアセスメント時間は最終介入時には15.70 分と初回より3 分程度短縮した。舌の汚れ、歯の汚れ、歯ブラシへの汚れの付着が視診で改善。問診では口の中が乾きやすい、しゃべりにくいに減少がみられた。食生活での事後アセスメントで、食事がとてもおいしい とても楽しいと答えたものが多かった。	虚弱高齢者および要介護高齢者に対する口腔機能の向上と口腔清掃自立支援に関する研究：堀 正子，中川 律子，廣石 マサ子，中澤 千賀子，藤井 千春，太田 郁恵，三澤 洋子，加藤 明美，今西 香苗，大原 里子，北原 稔，渡辺 晃子，小柴 秀世：日本歯科衛生学会雑誌 (1884-5193)1 巻 1 号 Page154-155(2006.10)	200721073 5
	堀正子	口腔機能		3 か月	日本			
		味覚		介入				
76		虚弱老人		縦断		デイサービスセンターを利用している在宅の虚弱老人・障害者に対して歯科医師による歯科検診,および歯科衛生士によるブラッシング,義歯の手入れ等を含めた口腔ケア	障害者・虚弱老人に対する歯科保健介入後の前後比較デザインによる評価:中山 佳美, 森 満：口腔衛生学会雑誌 (0023-2831)51 巻 5	200208023 5
	中山佳美	口腔ケア	49 人	2 回介入	日本			

		デイサービス				を,年2回実施した.また,デイサービス職員に対する歯科保健技術支援を実施した,上下顎義歯の適合性や夜間の義歯保管方法の改善,義歯洗浄剤使用者の増加を認め,「気分が良くなった」「よく話すようになった」などの QOL の向上も認めた	号 Page802-808(2001.10)	
77		介護予防		縦断		RSST を除く各口腔機能評価項目において、有意に口腔機能向上がみられた。虚弱高齢者において、口唇閉鎖機能および舌機能が向上し、構音機能を主とした口腔機能が改善したことから、摂食嚥下機能が改善したことが示唆された。口腔衛生状況に関しては、義歯あるいは歯の汚れおよび舌苔は、有意に改善されたが、口腔清掃回数には有意な改善はみられなかった。	大阪府介護予防標準プログラムにおける口腔機能向上の効果(第2報) 口腔機能および口腔衛生状況の変化：貴島 真佐子, 糸田 昌隆, 伊藤 美季子, 田中 信之：日本口腔ケア学会雑誌 (1881-9141)3 巻 1 号 Page37-43(2009.03)	
	貴島 真佐子	健口体操	83 人	12 週	日本			200926764 1
		虚弱老人	65 才以上 虚弱老人					
78		口腔機能評価	36 人	縦断		咀嚼機能 GH-A 1 年後に改善した。嚥下機能の指標である RSST, オーラルディアドコキネシス「pa 音」の回数が GH-A 6 カ月後に有意に増加した。さらに, MMSE 得点は, GH-B で 1 年後に有意に低下したが,	グループホームにおける口腔機能向上プログラム介入による 認知機能の低下抑制効果について	
	石川 正夫	口腔機能向上プログラム	GH	1 年	日本			http://doi.org/10.11259/jsg.30.37

		MMSE				GH-A では変化はみられなかった。		
79		経口摂取	名古屋在住コホート	縦断		介護食（普通食以外の食形態のもの）摂取している対象者は要介護度が高く、特に介護食の 38.8%は要介護 5 であった。普通食摂取に比較し、ADL を除く調整では介護食、経管栄養使用者では死亡、入院リスクが有意に高値であったが、ADL を調整因子に加えるとその有意な関係は消失した。肺炎による死亡ならびに入院リスクに関しては ADL を調整因子として投入しても、介護食、経管栄養使用者では有意なリスク（入院は経管栄養のみ）となった	在宅療養中の要介護高齢者における栄養摂取方法ならびに食形態と生命予後・入院リスクとの関連：葛谷 雅文, 長谷川 潤, 榎 裕美, 井澤 幸子：日本老年医学会雑誌 (0300-9173)52 巻 2 号 Page170-176(2015.04)	http://doi.org/10.3143/geriatrics.52.170
	葛谷 雅文	食形態	1872 名	3 年	日本			
		生命予後						
80		在宅 特養	在宅 1112	コホート		在宅ならびに特養における要介護高齢者には多くの経口摂取困難者が存在し、正常に経口摂取できる対象者と比較し栄養不良が多く存在していた。	要介護高齢者の経口摂取困難の実態ならびに要因に関する研究：葛谷 雅文, 榎 裕美, 井澤 幸子, 広瀬 貴久, 長谷川 潤：静脈経腸栄養 (1344-4980)26 巻 5 号 Page1265-1270(2011.09)	2012023549
	葛谷 雅文	低栄養	特養 655	横断	日本			
		嚥下障害						
81		在宅医療		栄養士研修		在宅医療における栄養ケアは研修関係者から必要だと考えられていたが、管理栄養士	栄養士が在宅医療において栄養ケア活動を行う事に関する研修の評価	201531901
	江口	栄養	16 名	半年後	日本			

	昭彦					は摂食・嚥下困難者に対するケアを含む栄養ケアにおいて経験を積むことを期待されていた。	: 江口 昭彦, 梅木 陽子, 児島 百合子, 緒方 智宏, 熊川 景子, 三隅 幸子, 久野 一恵: 西九州大学健康栄養学部紀要 (2189-0846)1 巻 Page63-76(2015.03)	5
		管理栄養士						
82		低栄養		コホート		居宅療養高齢者の低栄養は, ADL, 入院歴, 認知機能, 摂食・嚥下機能との関連が強く認められた.	在宅療養要介護高齢者における栄養障害の要因分析 the KANAGAWA-AICHI Disabled Elderly Cohort (KAIDEC) Study より	://doi.org/10.3143/geriatrics.51.547
	榎 裕美	MNA-SF	1142 名	横断	日本		榎 裕美, 杉山 みち子, 井澤 幸子, 廣瀬 貴久, 長谷川 潤, 井口 昭久, 葛谷 雅文: 日本老年医学会雑誌: Vol. 51 (2014) No. 6 p. 547-553	
		摂食嚥下障害						
83		高齢社会		総説	日本	高齢者は健常人であろうとも生物学的な加齢に伴って徐々に代謝栄養学的な有意性を喪失していく医療の前の段階で、栄養状態をいかに維持、向上させておくかが、いきいきと生きるための鍵となる	患者の暮らしを考えた在宅栄養管理の実践に向けて 東口 高志: 日本静脈経腸栄養学会雑誌 Vol. 30 (2015) No. 3 p. 761-764	://doi.org/10.11244/jspen.30.761
	東口 高志	食力						
		内固外進						
84		食生活	70 歳 600	コホート		1 年間の変化をみると、疼痛群は果実類で	義歯による疼痛が高齢者の食品摂	

			名 横断			摂取が有意に減少し、アルコール類及びマヨネーズ・ドレッシングの摂取量で有意に増加した。義歯による疼痛群では野菜類の平均的摂取量が少なく、果実類の摂取量が経年的に少なくなることから、義歯による疼痛がビタミン、無機質及び食物繊維の摂取に影響すると考えられた。	取に与える影響：鈴木 亜夕帆，渡邊 智子，西川 浩昭，渡邊 令子，西牟田 守，宮崎 秀夫：民族衛生 (0368-9395)77 巻 3 号 Page85-93(2011.05)	
	鈴木 亜夕帆	義歯の状態	270 名 縦断 一年	横断と縦断	日本			201128233 2
		野菜類 果実類						
85		在宅高齢者	65 歳以上の在宅高齢者 101 名	横断		エネルギー摂取量不足 5.0%エネルギー摂取量過剰 21.8%。総エネルギーに占める炭水化物と脂肪の割合が高かった。ビタミン B1、カルシウム、マグネシウム、亜鉛は 30%以上のものが不足していた。ナトリウム摂取量は 90.1%が目標量以上摂取していた。	女性在宅高齢者の食生活の実態と栄養摂取状況：亀崎 明子，田中 満由美：母性衛生 (0388-1512)56 巻 2 号 Page273-281(2015.07)	
	亀崎 明子	栄養摂取状況	女性		日本			201532236 2
		食生活支援	質問紙法					
86		臨床的認知症尺度	グループホーム入居	横断		認知症重症度との間で有意差が認められた項目は、プラークの付着、食物残渣の残留、咬筋緊張度、誤嚥のリスク、リンシン	認知症グループホーム入居高齢者における認知症重症度と口腔機能および栄養状態の関連：小原 由紀，高城 大輔，枝広 あや子，森下 志穂，渡邊 裕，平野 浩彦：日本歯科衛生学会雑誌 (1884-5193)9 巻 2 号 Page69-79(2015.02)	
	小原 由紀	機能評価	84.2 歳		日本	グおよびガーグリングの可否、簡易栄養状態評価、オーラルディアドコキネシスの回数、反復唾液嚥下テストの 30 秒間の回数であった。認知症高齢者の口腔機能および栄養状態は、認知症重症度による差異が認		201516931 1
		グループホーム	150 名					

						められた。		
87		在宅要介護 高齢者	在宅要介 護高齢者	横断		家族介護者が行う口腔ケアの実施回数は平均 14.4±11.5 回/週で、歯ブラシを用いた方法が最も多かった。要介護高齢者の経管栄養群では、家族介護者が行う口腔ケアの実施回数および口腔ケア時に吸引器を使用している割合が有意に多かった。	家族介護者が行う在宅要介護高齢者の口腔ケアの実態 栄養摂取方法及び口腔ケア支援との関連の検討：寺島 涼子, 江本 厚子：日本口腔ケア学会雑誌 (1881-9141)9 巻 1 号 Page49-53(2015.03)	
	寺島 涼子	口腔ケア	家族介護者 29 組	口腔ケア 行動観察	日本			201526666
		栄養摂取方法		聴き取り 調査				6
88		介護予防	14 名	横断		RSST にて有意な改善が認められたが、その他唾液分泌量に増加が認められたものの有意差はなし。プログラムの期間が短いおよび対象者数が少ない対象者に多数歯欠損の義歯装着者が多く、咬合の支持・安定性が得られてないことにより、咬合力の改善、唾液分泌流量の有意な増加につながらなかった	高齢者の口腔清掃指導および口腔体操実施による口腔機能の変化：居林 晴久, 矢野 純子, Pham Truong Minh, 田中 政幸, 西山 知宏, 酒井 和代, 松田 晋哉, 小林 篤, 矢倉 尚典：産業医科大学雑誌 (0387-821X)28 巻 4 号 Page411-420(2006.12)	
	居林 晴久	口腔機能向上	地域在住 高齢者	介入 健 口体操	日本			200708105
		唾液検査		3 か月				5
89		専門的口腔 ケア	41 人	横断		口腔ケアに関して、口腔内の清潔度や口臭の改善など良好な結果が得られたが、口腔機能の改善は認められなかった。義歯の歯科医療介入を評価した 3 群間では、食事形態は経管栄養から普通食になるなど介入群で食事形態の改善を認めたが、体重や血清アルブミン値は 3 群間で変化を認めなかつ	専門的口腔ケアの導入と義歯の歯科医療介入による要介護高齢者の QOL の改善：藤中 高子：日本公衆衛生雑誌 (0546-1766)55 巻 6 号 Page381-387(2008.06)	
	藤中 高子	要介護高齢者	特養入居者	介入 口 腔ケア 1 年	日本			200827537
		QOL						2

						た。		
90		義歯	378 名	横断		。咬合支持の違いは咀嚼能力に有意な影響を及ぼし、咬合支持域が多くなるほど咀嚼能力が高くなった。統計学的有意差は認められなかったが、咬合支持が多くなるほど、口腔関連 QOL、身体的・精神的健康状態、栄養状態も高くなる傾向であった。また咀嚼スコアの評価による咀嚼能力の値が高くなるほど、口腔関連の QOL、身体的・精神的健康状態、栄養状態が良好になる傾向が認められた	高齢者の栄養障害に対する歯科的アプローチに関するプロジェクト研究 高齢者の栄養障害に義歯装着がもたらす効果と高齢義歯装着者への摂食・栄養指導のガイドラインに関するプロジェクト研究：村田 比呂司, 志賀 博, 大久保 力廣, 渋谷 友美, 近藤 尚知, 櫻井 薫, 田中 順子, 松香 芳三, 水口 俊介, 鱒見 進一, 大川 周治, 西 恭宏, 越野 寿, 佐々木 啓一, 赤川 安正, 川良 美佐雄, 菊谷 武, 吉田 光由, 古谷野 潔：日本歯科医学会誌 (0286-164X)34 巻 Page54-58(2015.03)	
	村田 比呂司	栄養障害	65 歳以上		日本			2015206210
		咀嚼能力						
91		咀嚼能力	65-74 歳	横断		咀嚼能力の低下は、食事の状況(欠食頻度の増加)、摂取食材種類数の低下、食品群別摂取状況(総野菜、緑黄色野菜、緑黄色野菜以外の野菜、肉類などの摂取頻度の低	高齢者の栄養障害に対する歯科的アプローチに関するプロジェクト研究 歯科と栄養学的アプローチの併用による高齢者の栄養サポー	
	守屋信吾	栄養	地域自立高齢者	訪問調査	日本			2015206209

			351 名			下)に関連していた。咀嚼能力の低下と BMI との関係は、BMI25.0 以上で有意に関連していた。BMI25.0 以上の者では、摂取している食材種類数が有意に少なかった。咀嚼能力の低下した者では、残存歯や義歯による咬合支持を喪失している者が多く、義歯の適合度が低下し、歯科の未受診期間が長い者の割合が高かった。	ト体制の構築：守屋 信吾, 石川 みどり, 下山 和弘, 越野 寿：日本歯科医学会誌 (0286-164X)34 巻 Page49-53(2015.03)	
92		口腔機能	人数不明	治療前後 縦断		口腔機能客観的評価は、グミゼリー咀嚼時のグルコースの溶出量。口腔機能の主観的評価は、食品摂取状態のアンケートによる咀嚼スコア。口腔内の健康状態は OHIP-14 全身健康状態は SF-12 の PCS MCS、栄養状態は MNA クリーニング値を選択。歯科補綴治療により口腔機能は改善し、口腔内の健康状態、全身の健康状態、栄養状態は改善、あるいは改善する傾向が認められた。	口腔疾患の治療や口腔機能の維持・回復が全身の健康に与える影響に関するプロジェクト研究 歯科治療による口腔機能の改善が健康に及ぼす影響に関する臨床データベースの構築：志賀 博, 横山 正起, 横山 敦郎, 坂口 究, 服部 佳功, 依田 信裕, 赤川 安正, 川良 美佐雄, 大川 周治, 祇園白 信仁, 小野 高裕, 前田 芳信, 皆木 省吾, 津賀 一弘, 鱒見 進一, 佐々木 啓一：日本歯科医学会誌 (0286-164X)34 巻 Page69-73(2015.03)	
	志賀 博	食品摂取状況			日本			201520621 3
		栄養状態						
93		食行動	50-70 歳	横断		咬合支持の喪失した人は、5 種類の食行動	咀嚼能力関連因子と食行動との関	

	竹村 佳代子	咬合支持	1,760 人		日本	(朝食を抜く、就寝前 2 時間以内に夕食をとる、夕食後に間食をとる、頻繁に間食をとる、甘い飲料を日に 3 回以上とる)を有する割合が有意に高かった。	係 吹田研究：竹村 佳代子, 吉牟田 陽子, 小野 高裕, 小久保 喜弘, 来田 百代, 高阪 貴之, 安井 栄, 野首 孝祠, 前田 芳信：日本咀嚼学会雑誌 (0917-8090)23 巻 2 号 Page81-89(2013.11)	201429323 7
		肥満						
94		要介護度	介護老人施設	横断		義歯装着、機能歯数は、食事内容により有意差が認められ、義歯を装着し機能歯数の増加を図ることが食事内容の改善に影響する。	介護老人保健施設入所者の食事内容と口腔・全身状況との関連性に関する検討：小松崎 明, 江面 晃, 末高 武彦, 黒川 裕臣, 遠藤 敏哉, 長谷川 優：老年歯科医学 (0914-3866)22 巻 3 号 Page319-325(2007.12)	200813538 2
	小松崎 明	食事内容	24 名		日本	ADL 要介助項目数、要介護度、BDR 要介助項目数で食事内容により有意差が認められ、全身機能、要介護状態と食事内容との関連が認められた。		
		義歯装着						
95		口腔機能向上プログラム	デイケア	縦断		「健診のみ群」ではオーラルディアドコキネシスで一部機能低下が認められたのに対し、「介入群」においては期間中機能がほぼ維持できていた。しかし、RSST、口腔衛生評価などでは、プログラムにより検査値が向上するものの休止期間に元に戻る傾向が認められ、継続的な介入の必要性が示唆された	高齢者における口腔機能向上プログラムの効果の経時的変化：富田 かをり, 石川 健太郎, 新谷 浩和, 関口 晴子, 向井 美恵：老年歯科医学 (0914-3866)25 巻 1 号 Page55-63(2010.06)	201026242 7
	石川 健太郎	介護予防	6 名	3 か月 2 週間ごと	日本			
		口腔衛生		1 1 か月 休止後 DO				

96		特定高齢者	特定高齢者 51 名	縦断 介入		口腔機能向上プログラムによって舌苔の付着量、口輪筋の引っ張り抵抗、オーラルディアドコキネシス「タ」および「カ」のいずれにおいても改善が認められ、口腔清掃習慣の改善および口輪筋と舌機能の向上が示唆された。	特定高齢者における口腔機能向上プログラムの効果：薄波 清美, 高野 尚子, 葭原 明弘, 宮崎 秀夫：新潟歯学会雑誌 (0385-0153)40 巻 2 号 Page143-147(2010.12)	
	薄波清美	口腔機能		3.6.9 か月	日本			2011150478
		介護予防						
97		栄養状態	在宅療養者	横断	日本	パス解析で悪い口腔健康状態、認知機能が悪いことが義歯装着、およびその結果としての嚥下障害に直接影響を持っていたことが示され、認知障害に加えて、積極的に栄養不良と関連していました。栄養失調など嚥下障害や認知障害は直接 ADL を制限しました。	Interrelationship of oral health status, swallowing function, nutritional status, and cognitive ability with activities of daily living in Japanese elderly people receiving home care services due to physical disabilities. Furuta M1, Komiya-Nonaka M, Akifusa S, Shimazaki Y, Adachi M, Kinoshita T, Kikutani T, Yamashita Y. : Community Dent Oral Epidemiol. 2013 Apr;41(2):173-81. doi: 10.1111/cdoe.12000. Epub 2012 Aug 30.	
	Furuta M	口腔状態	286 名					doi: 10.1111/cdoe.12000.
		身体障害						
98		Oral health	65 歳以上高齢者	横断		高齢者で 20 本以上の歯を持ち機能的歯列を維持することは果物や野菜が豊富で健康的な食事、十分な栄養状態、および適正 BMI を有する点で重要な役割を果たしてい	The relationship between dental status, food selection, nutrient intake, nutritional status, and body mass index in older people. :	
	Marcene	BMI	在宅 753		イギ			PMID:

	s W				リス	ます。	Marcenes W, Steele JG, Sheiham A, Walls AW. : Cad Saude Publica. 2003 May-Jun;19(3):809-16. Epub 2003 Jun 11.	12806483
		Nutrition	施設 196					
99		dental health	4425 名	前向きコホート		Cox 比例ハザードモデルでは、残っている歯の数、能力を食べて、障害の発症との間に有意な関連があった。	Association between dental status and incident disability in an older Japanese population. : Aida J, Kondo K, Hirai H, Nakade M, Yamamoto T, Hanibuchi T, Osaka K, Sheiham A, Tsakos G, Watt RG. : J Am Geriatr Soc. 2012 Feb;60(2):338-43.	doi: 10.1111/j.1532-5415.2011.03791.x.
	Jun Aida	disability	65 歳以上高齢者		日本	残存歯 19 本以下の歯の者は、機能障害の発症は倍高いハザード比を持っていた。食べる能力は大きく障害の発症と関連ない。		
		cohort study						
100		bite force	160 人	横断		咬合力はアイヒナー分類、歯数に相關片側咬合と栄養摂取、ほとんどの場合、一般的に片咬みをしている反対側の咬合力は弱い統計的に非有意でした。障害者の一般的な健康と残存歯の数は咀嚼の問題と関連していました。	Masticatory ability in 80-year-old subjects and its relation to intake of energy, nutrients and food items. : Osterberg T1, Tsuga K, Rothenberg E, Carlsson GE, Steen B. : Gerodontology. 2002 Dec;19(2):95-101.	PMID: 12542218
	T Osterberg	dietary habits	80 歳		スウェーデン			
		nutrition						
101		口腔機能	介護老人施設	縦断 介入前後		摂食嚥下機能評価に基づいて、適切な食形態、食事姿勢、食事介助方法などを個別に指導し、特に誤嚥のあるもので有意に体重が増えた。	高齢者の栄養障害に対する歯科のアプローチに関するプロジェクト研究 歯の喪失ならびに口腔機能低下が栄養状態に及ぼす影響 ア	201520621 1
	菊谷武	栄養状態	31 名		日本			

		摂食嚥下リハビリテーション					セスメント法の開発：菊谷 武, 吉田 光由, 菅 武雄, 木村 年秀, 田村 文誉, 窪木 拓男：日本歯科医学会誌 (0286-164X)34 巻 Page59-63(2015.03)	
102		糖質制限	65 才以上	プロトコール		この研究からの知見は、筋肉や神経の健康における加齢変化だけでなく、高齢者の認知機能の管理および予防のための、よりターゲットを絞った栄養と運動のガイドラインの基礎を形成することになる	The effects of a protein enriched diet with lean red meat combined with a multi-modal exercise program on muscle and cognitive health and function in older adults: study protocol for a randomised controlled trial Robin M. Daly, Jenny Gianoudis, Melissa Prosser, Dawson Kidgell1,, Kathryn A. Ellis, Stella O' Connell and Caryl A. Nowson Trials. 2015; 16: 339.	doi: 10.1186/s13063-015-0884-x
	Robin M. Daly	タンパク質強化		介入	オーストラリア			
		プログレッシブレジスタンストレーニング						
103		サルコペニア	65 歳以上 高齢者	13 週 栄養介入		握力と下肢機能の評価は、重要な群間差なしに両群で改善した。介入群は、対照群と	Effects of a Vitamin D and Leucine-Enriched Whey Protein Nutritional	

	Bauer JM	タンパク質	380 名		ドイツ	比較して椅子立ち上がり試験においてより群間効果を改善した。介入群は、群間の効果を対照群よりも多くの四肢筋肉量を獲得した。	Supplement on Measures of Sarcopenia in Older Adults, the PROVIDE Study: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial. : Bauer JM, Verlaan S, Bautmans I, Brandt K, Donini LM, Maggio M, McMurdo ME, Mets T, Seal C, Wijers SL, Ceda GP, De Vito G, Donders G, Drey M, Greig C, Holmbäck U, Narici M, McPhee J, Poggiogalle E, Power D, Scafoglieri A, Schultz R, Sieber CC, Cederholm T. : J Am Med Dir Assoc. 2015 Sep 1;16(9):740-7.	doi: 10.1016/j.jamda.2015.05.021.
		ビタミンD						
104	Hardman RJ	エクササイズ	60-90 歳	プロトコール		運動と地中海式食事法の介入、両方個別との組み合わせでは、対照と比較して認知能力の向上をもたらすと仮定。	A randomised controlled trial investigating the effects of Mediterranean diet and aerobic exercise on cognition in cognitively healthy older people living independently within aged care	doi: 10.1186/s12937-015-0042-z.
		地中海式食事	施設在住高齢者	介入	オーステラリア			